

2級 【パターン】傾向と対策

1. 作図・パターン展開

<身頃・ポケット>

- ・課題のシルエットは、4面構成のパネルラインのジャケットである。原型のバストダーツを衿ぐり・袖ぐりに分散、残りを前パネルラインにいせとして展開する。その結果、胸ぐせの分散のバランスが悪く、袖ぐりが大きすぎるものやいせ分量が多すぎるものがあった。また、いせ分量を処理しきれずにウエストの方までいせ込まれ、身頃のシルエットが崩れてしまい減点されたものがあった。
- ・ウエストのしぼり具合のバランスが悪いため、シルエットが悪く、減点されたものがあった。
- ・後ろ肩線や前パネルなどいせが入る部分の合い印が抜けているもの、合い印はあるが、線に対して直角に入っておらず、合い印が合わないものなどがあった。いせを入れる部分の前後、縫い止まり位置、ウエストやネックポイントの位置など、ポイントになる部分には合い印を適切に入れること。
- ・ウエストラインで線が角張っているものがあった。本来はスムーズな線でつながらなければならない。
- ・裾のライン修正がされておらず、接ぎ部分の裾が角になっているものもあった。

<ラペルと衿>

- ・課題のデザインはノッチドラペルであり、ラペル・上衿の角は丸くカーブのデザインとなっているが、カーブ部分が角のままであったり、丸が小さすぎるものなど、デザインを読み取るところまで至っていないものがあった。
- ・衿の製図方法はさまざまあるが、後ろ中心での衿腰と衿幅の関係、衿付け線と衿の外回りの関係が悪いため、減点されたものがあった。

<袖>

- ・袖の製図にはさまざまな方法があり、身頃の袖ぐりに対して適当な袖山の高さを決めるべきであるが、袖山が低すぎたり高すぎたり、袖幅が狭すぎたり広すぎたりするもの、さらに、袖山のいせ分量が少なすぎたり多すぎたり、袖山の形状の不自然なものが目立った。

2. 提出用ファーストパターン

- ・ファーストパターンは作図パターンを別紙に、別々にトレースして、名称・記号・合い印など、必要な事柄を書き入れたものをいい、ファーストパターンが最終提出パターンになる。
- ・ファーストパターンは規定寸法の範囲内であり、課題のデザイン画のバランスを読み、形よく構成されていること。全体としてのバランスと部分的な形状が模範解答に近く、縫い目線の形状や、つながりが縫製時を設定して考えられていることも大切である。作図後にパターンをトレースし、ラインの形状・つながりを確認し、必要事項を書き込んでファーストパターンを完成させるが、時間的に余裕がなく、とりあえず作図をトレースしてファーストパターンとしているものも多かった。鉛筆の線が一定の太さと濃さで描かれていることも重要である。2級の完成度に達しないものが多かったと思われる。
- ・課題に設定された着丈・袖丈などの規定寸法や条件に関する説明を再確認し、要求されている記入事項として名称・地の目・記号・合い印（縫い止まり・明き見せ止まり）・ボタンなどが記入されていること。さらに、見返し線の描き忘れには注意していただきたい。また、必要なパターンが全て揃っていること。特に、ポケットなどパーツパターンの描き忘れがないように、最終確認を確実に行っていただきたい。